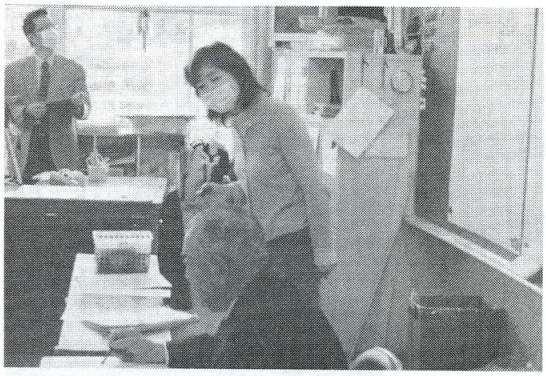

＊　本時の主眼「塩野地区で灰野川の量の少ない水を田に引くために工夫した番水制度を知り，実際に番水係の仕事をやってみた子ども達が，なぜこんなに苦労をしてまで番水制度を行い水を引いたのか話し合い，体験者の話を聞くことを通して昔の人々の稲作への工夫と苦労を理解し，それを支えている願いや思いを考えることができる」

④　H児の予想は「自分たちの食べ物になるから」であった。しかし，塩野の水田を開発してきた先人に思いを寄せたY児の「『自分が死んだらあの田のところに埋めてくれ』とそこまで苦労した人々がいるから，一滴の水を無駄にできなかった」やR児の「田を荒らしたら才兵衛さんが困る，怒ると思って番水制度の工夫をした」等の友の考えやその考えを確かにする古老のお話から，「才兵衛さんに迷惑，申し訳ないから」と考えを深めていった。また，Y児は友や古老のお話を聞いて「T君が『才兵衛さんの苦労を終わりにしたくない』といったけど，昔の人がこの土地のために苦労して死んでいった意味がなくなる」とさらに考えを深めた姿があった。さらにY児は本時の振り返りで「昔の人の苦労を田んぼのまま残したい」と語った。

(2)　事例から明らかになったこと

①実際に番水制度を経験している塩野の古老の方に来ていただいている中で，子ども達が関連する予想を出し合い，その予想毎に昔の様子を含めて直接答えてもらうことで，社会的な見方，考え方が深まる。

②体験的な学習をすることで，子ども達は社会的事象を自分のこととしてとらえやすくなり，意欲的な学習につながる。

③ゲストティーチャーとの綿密な打ち合わせの上で，教師が子どもの予想に関わった適切な問いかけや問い返しをゲストティーチャーや子どもにしていくことで，考えを整理したり，補強したり，修正したりして，社会的な見方・考え方が深まる。

4　来年度への課題

＊来年度も授業者の課題にそった研究を主としていく方向でいきたいが，そこに下記の点もふくめて研究していきたい。

(1)　個々の考えに子ども同士で関わり合って，練り上げていくための支援のあり方。

(2)　子ども達が予想を話し合う中で，予想が練り上げられたり，困ったりした時に，子ども達自らが，資料（ゲストティーチャー等）に関わっていくための支援のあり方。

5　その他

(1)　研究会では，研究内容の1から3に沿って小グループ討議をし，小グループ毎に話し合われたことを画用紙に書き，それを見合う時間をとった。その後に，共通討議事項を絞って全体討議の時間をとった。今回の方法は参会者からは好評だったので，来年度も参考にしていきたい。

(2)　講師については，教育課程研究協議会との違いを明確にしていくということも含めて，今年のようにその地域のことを教えていただけるような方にお願いしていく方向もよい。